

# 研究奨励交付金（若手奨励研究） 報 告 書

令和3年度採択分  
令和4年5月19日作成

**研究課題名（和文）** 親子で学ぶ性の健康教育プログラムが家庭での性の健康教育実践に及ぼす効果の検証

**研究課題名（英文）** Verification of the effects of parent-child learning sexual health education programs on sexual health education practices at home

## 研究代表者

氏 名 道園亜希  
福岡県立大学 看護学部・助教

## 研究組織

氏 名	所属研究機関・部局・職	役割分担（研究実施計画に対する分担事項）
道園亜希	看護学部・看護学科・助教	研究全般

## 研究奨励交付金（配分額）

円

### 研究成果の概要（当該研究期間のまとめ、できるだけ分かりやすく記述すること。）

本研究の目的は、国際セクシュアリティ教育ガイダンスをもとに作成した性の健康教育プログラムが、家庭での性の健康教育実践に及ぼす効果を検証することであった。対象は5歳～8歳の子どもとその保護者で、プログラムには4組の親子（子ども5名、保護者4）が参加した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染状況により実施が2022年度4月となってしまう、今現在プログラム終了後の家庭での様子（性の健康教育実践）についてインタビューを実施している最中である。各プログラム後に実施した質問紙調査から、全体を通しての満足度は高く、開催時間・時期の妥当性は伺えた。また、プログラムを通して子ども達の仲も大変よくなっていき、それに伴いプログラム中の発言回数が増加し、リラックス感も高まっていった。このことから、保護者・子ども双方のグループダイナミクスを意識したプログラム編成を再考する必要があると考えている。今後インタビュー内容を丁寧に分析し、このプログラムをさらに発展させていきたい。

## 研究分野／キーワード

年長児、小学校低学年、包括的性教育、保護者、プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

子どもを取り巻く性に関する社会問題は依然として解消されないままであり、子どもが性犯罪に巻き込まれるケースも後を絶たない。令和2年、児童買春事犯等の検挙件数は2,409件、児童ポルノ事犯は2,757件と過去最多を更新しており、児童ポルノ事犯の検挙を通じて新たに特定された被害児童数は1,320人にも及んでいる<sup>1)</sup>。インターネットの普及に伴い、容易にアダルトビデオなどの商品化された性情報が子ども達の目に留まりやすく、出会い系サイトを通じて性犯罪に巻き込まれる事例も増加傾向にある<sup>1)</sup>。中高生だけでなく、小学生や未就学児も性被害に<sup>2)</sup> いることを考えると、幼児期から性に関する知識や身を守る術を学ぶ必要がある。

このような状況を受け令和2年6月に政府より「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」<sup>3)</sup>を示した。それを受け、文部科学省が『犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないための「生命(いのち)の安全教育」指導の手引き』<sup>4)</sup>を作成した。幼児期から大学生まで年齢に応じた指導内容、教材(パワーポイント)をホームページに掲載しており誰でも閲覧、利用可能となっている。特に幼児期における性に関する教育については幼稚園教育要領および保育所保育指針<sup>5)</sup>においても具体的に明記されておらず、今回初めて明確に幼児期の性に関する学びの指針が示された形となる。

しかし、国連教育科学文化機関(ユネスコ)と世界保健機構(WHO)が共同で作成した『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』(以下ガイダンスとする)では、幼児期からの包括的なセクシュアリティ教育が推奨されている<sup>6)</sup>。包括的セクシュアリティ教育とは、性被害予防に特化した教育だけでなく、8つのキーコンセプト(①人間関係、②価値観・人権・文化・セクシュアリティ、③ジェンダーの理解、④暴力と安全確保、⑤健康とウェルビーイングのためのスキル、⑥人間のからだの発達、⑦セクシュアリティと性的行動、⑧性と生殖に関する健康)について包括的で正確、科学的根拠に基づき、かつ、各年齢に適した情報を得る機会を提供する教育カリキュラムである。さらに、ガイダンスでは、人権とジェンダー平等の視点から、子どもが性に関して責任ある選択ができる知識・スキル・価値観を身につけるために、5歳から段階的に性教育を実施していく必要性が述べられている<sup>6)</sup>。日本においても及川<sup>7)</sup>が、性感情が歪められていない幼児期に性をどう印象づけるかは、将来まで大きな影響を与え、幼児期からの性教育の必要性を述べている。日本では、早い時期からの性教育は寝た子を起こす<sup>8)</sup>などの意見が多く、思春期前からの性教育は否定的にとられていたが、幼少期からの性教育によって性交年齢が早まったとの傾向はなく、むしろ遅くさせ、慎重にさせる結果がみられたという調査結果も明らかになっている<sup>6)</sup>。

そこで筆者は、ガイダンスが設定しているレベル1(5歳~8歳)の年長児から小学校2年生までの子どもを対象とした性被害予防を含む性の健康教育プログラムを作成した。また、先行研究において、子どもと保護者が一緒に学ぶことによって、保護者がわが子の自尊感情が育まれる時期に子どものニーズに応じた学習支援ができ、保護者自身が育児の自己効力感を高めることができた<sup>9)</sup>ことから、このプログラム内容は子どもとその保護者が一緒に性の学びを共有できるものとした。この性の健康教育プログラム受講によって、保護者の性に対する思いの変化及び我が子へ性の健康教育を行うことに対する思いや行動に及ぼす効果を検証する。

## 2. 研究の目的

本プログラムの内容の妥当性を検証すると共に、プログラム受講によって、保護者の性に対する思いの変化及び我が子へ性の健康教育を行うことに対する思いや行動に及ぼす効果を検証する。

### 3. 研究の方法

#### 1. 研究デザイン

研究1：計3回のプログラム終了時にそれぞれ質問紙調査を行う。

研究2：全プログラム終了1カ月後に半構造化面接による質的記述的研究を行う。

#### 2. 研究対象者

A市幼稚園または保育園の年長児及び年中児（プログラム開催時期が4月のため現年長児は小学校1年生、現年中児は年長児になっているため）と一緒に、親子で学ぶ性の健康教育プログラムに参加した保護者5名。

#### 3. 調査内容

##### 1) プログラム実施概要

**第1回：みんな最初は赤ちゃんだった！～自分はどうやって生まれてきたんだろう？～**

<内容>

- ・自己紹介、アイスブレイク
- ・生命のはじまりについて（精子と卵子の出会い、胎児の成長など）
- ・出産のメカニズム（経膣分娩、帝王切開分娩について）
- ・産道体験（布製子宮モデルを用いて）

**第2回：自分のからだを大切にすることってどういうこと？～性被害予防のおはなし～**

<内容>

- ・アイスブレイク
- ・自分のからだの名前を知ろう
- ・プライベートゾーンと性器の洗い方について
- ・性被害予防のお話し

**第3回：みんなちがってみんないい！～性の多様性のおはなし～**

<内容>

- ・アイスブレイク
- ・ころって何だろう？
- ・性の多様性に関する絵本2冊読み聞かせ
- ・まとめ
- ・表彰式

「ころとからだを守るスーパーレンジャー任命証」とレンジャーバンダナ授与

##### 2) 調査方法

研究1：各プログラム終了後に質問紙調査を実施。

研究2：全3回のプログラム終了後インタビュー

全3回プログラム終了1カ月後にインタビューを実施する。対面あるいはオンライン（zoom）とし、研究対象者の身体的および精神的負担をできるだけ感じない環境を作るため、調査日時、調査場所は研究対象者の希望に合わせる。特に希望がない場合は、大学施設内のプライバシーが保護される場所を使用する。

インタビューガイドに基づいて対面またはオンライン（zoom）にてインタビューを行い、プロ

グラム受講後の子どもの変化や家族内での会話の変化など自由に語ってもらう。インタビュー回数は1回とし、時間は1時間程度とする。インタビューの内容は、研究対象者の許可を得てICレコーダーに録音する。

#### 4. 研究の主な成果

新型コロナウイルス感染症状況により、クラス開催が予定より大幅に遅れ、2022年度4月9日(土)・4月16日(土)・4月23日(土)に実施となった。そのためプログラム終了1カ月後のインタビューを現在実施しているところであるため、今回は研究1の各プログラム終了後の質問紙調査結果を報告したい。

##### 1) 第1回：みんな最初は赤ちゃんだった！～自分はどうやって生まれてきたんだろう？～

プログラム時間の長さは参加者4名中4名とも「ちょうどよい」と回答。プログラム(「生命のはじまりについて(精子と卵子の出会い、胎児の成長など)」「出産のメカニズム(経膈分娩、帝王切開分娩について)」「産道体験(布製子宮モデルを用いて)」)の各項目すべてについて、4名とも「とても満足」と回答。「プログラム中のお子様の様子について」は4名とも「よく理解できているようだった」との回答がみられた。

感想として「精子・卵子については今まで話したことがなかったが、すんなり理解していたようでよかった。少し早いかなと思ったが、全く心配はいらなかった。」「色々なグッズが出てきてすごいと思った。子ども達の様子をみながらペースを合わせてお話し頂けてよかった」「要所要所で私も感動してうるうるしてしまった。とても分かりやすく子ども達にも伝わっていると思う。」「受精卵の大きさを示した紙があったり、絵本だったり、子宮の中に入って体験できたり、色々な工夫がしてあって、子どもも引き付けられていた。楽しく興味を持って聞いて体験していた。とてもよかった。」「赤ちゃんの成長の大きさを改めてみることで、命って赤ちゃんってすごいなあと思った。妊娠中はきついこともあるけど、今回の話で愛おしい存在に変わっていった。もう一人妊娠したいと思うようになった。」「帝王切開であることは伝えていたが、その仕組みや怖かったこと、両方頑張って産んだことまで伝えて頂けてよかった。」

##### 2) 第2回：自分のからだを大切にすることってどういうこと？～性被害予防のおはなし～

プログラム時間の長さは4名とも「ちょうどよい」と回答。プログラム(「自分のからだの名前を知ろう!」「プライベートゾーンについて」「性器の洗い方について」「性被害予防のお話し」)の各項目すべて4名とも「とても満足」と回答。「プログラム中のお子様の様子について」は4名中2名が「よく理解できているようだった」、残り2名が「まあまあ理解できている様子だった」との回答がみられた。

感想として「小さいころに聞いていることで、万が一何かあった時に話しやすくなりそう。権利のはなしにもつながるといことで素晴らしいと思う。」「もっと色々聞きたいと思うくらい。子ども達も飽きずに最後まで聞いていて内容もとてもよかった。お風呂と一緒に入るのがそろそろどうかなと思っていたが(私の体を触ってくるのがちょっと嫌な気持ちもあり)今日聞いたプライベートゾーンのことを話題にしていけたらいいと思う。」「今回もグッズもりだくさんでとても分かりやすかった。3～6年生の講座もぜひ聞いてみたいと思った。」「あと何回寝たらお勉強会行くの?と何度も聞かれ、本人はとても今日を楽しみにしていた。ワクワクしながら大切なことを学べるので私もとてもありがたい機会だなと改めて思った。このような取り組みはきっとたくさんママが必要としているのではないだろうか。」

### 3) 第3回：みんなちがってみんないい！～性の多様性のおはなし～

プログラム時間の長さは4名とも「ちょうどよい」と回答。プログラム(「こころって何だろう?」「絵本の読み聞かせについて」「絵本の読み聞かせ後の子ども達の話し合いについて」)は4名とも「とても満足」と回答。「プログラム中のお子様の様子について」は4名中2名が「よく理解できているようだった」、残り2名が「まあまあ理解できている様子だった」と回答。

感想は「LGBTを知識的に理解することは大人でもとても難しいと感じる。まず親、大人の理解が必要だと思った。子ども達の方がものの見方が柔らかく素直だと感じた。今後たくさんの経験をする中でバイアスがかかっていくこともあると思うが、それってどうなのかな?と一緒に考えていきたいと思う。」「任命証やレンジャー印など心配りに感動!子と親の方に話に話してくださるのでよかった。どちらかという親の方に話が必要と思うので。子ども達がみんな仲良くなってよかった。ものすごく親子で勉強になりました。」「性の多様性についてまで踏み込んで話したことがなかったの、子どもとの良いきっかけになりました。性に限らず、自分の気持ちを大切にしてほしいので、オールOK!が合言葉になるといいなと思います。」

「子ども達の素直な気持ちを普段から大切にしたいなと思いました。色々な考えがあって良いこと、一人一人が素敵な私、こころとからだを大切に意識して毎日過ごしたい。“心と体を大切に”が今の私にリンクしているキーワードだったので、やっぱりー!と導かれている気持ちになった。」

### 4) 考察および今後の展望

全3回のプログラムともに実施時間は、子ども向けの話20~30分、保護者向けの話10~20分であった。プログラム全体としては1時間弱であったが、第2回目、第3回目と回を重ねるごとに子ども同士、そして保護者同士の仲が深まり、プログラム終了後1時間ほど自然と輪になって話をされていた。インタビューの中で「保護者同士たくさん話ができ、色々な人の価値観や考えを聞くことができてさらに勉強になった。子ども達もとても仲良くなっており、(子どもが)また皆に会いたいとよく言っている」という言葉も聞かれている。実際3回のプログラムを通して子ども達の仲も大変よくなっていき、それに伴いプログラム中の発言回数が増加し、子ども達のリラックス感も高まっていた。このことから、保護者・子ども双方のグループダイナミクスを意識したプログラム編成を再考する必要があると考えている。

現在4名中2名のインタビューを終えた段階であるが、プログラム終了後も子ども達が学んだことを日常生活に活かしていることが伺えた。また「帝王切開で出産したことに後ろめたさを感じていたが、子どもが僕は帝王切開で生まれたんだ!と誇らしげに話をしている姿を見て、私のお産はこれでよかったんだと安心することができた」「もう子どもは2人でよいと思っていたが、もう1人ほしくなって今から妊活をしようと思っている」という語りより、本プログラムを通して保護者(母)自身の出産体験の振り返りや家族計画に関する思いの変化が生じるという効果がみられた。

これから残りの参加者にもインタビューを実施し、プログラム内容・回数の妥当性や家庭での性の健康教育実践に本プログラムが与える効果をさらに検証していきたい。



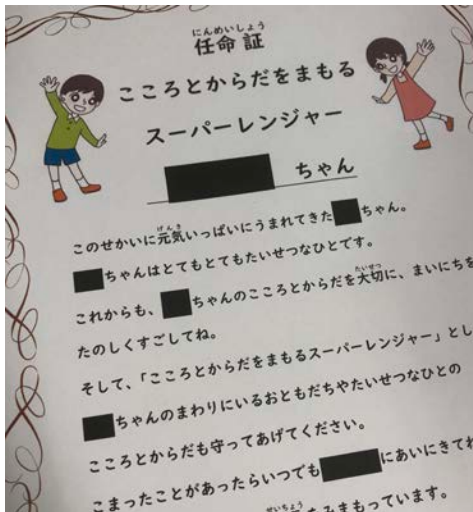
<第1回：子宮・産道体験時の様子>



<プログラム中の子ども達の様子>



<こころとからだを守るスーパーレンジャー任命式とバンダナ>



<任命証>

5. 主な発表論文等

なし

6. その他の研究費の獲得

なし

<参考文献>

- 1) 警察庁. 少年非行、児童虐待及び子どもの性被害. 2021/12/20参照. <http://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/syonen.html>.
- 2) 厚生労働省. 子どもの性被害. 2021/12/13参照. <https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000754725.pdf>
- 3) 厚生労働省. 性犯罪・性暴力対策の強化について：文部科学省 (mext.go.jp). 2021/12/10参照. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/danjo/anzen/index.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html).
- 4) 男女共同参画局. 「令和2年度 性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないための「生命の安全教育」調査研究事業」報告書 | 内閣府男女共同参画局 (gender.go.jp). 2021/12/10参照. [https://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/e-vaw/chousa/r02\\_inochi.html](https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/r02_inochi.html)
- 5) 文部科学省. 幼稚園教育要領. 2021/12.10参照. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm).
- 6) 厚生労働省. 保育所保育指針. 2021/12.10参照. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf>
- 6) ユネスコ編, 浅井 春夫ら訳. (2017). 国際セクシュアリティ教育ガイダンス—教育・福祉・医療・保健現場で活かすために. 東京：明石書店.
- 7) 及川裕子. (1998). 幼児期の性教育の意義. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 11, 30–36.
- 8) 道園亜希. 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学研究. 2019 ; 16 : 63–71.
- 9) 若井和子ら. (2017). 幼児期から親子で始める性教育が親子関係に与える効果. 川崎医療福祉学会誌, 27(1), 75–84.